

黒松内町

1339 原田龍一

1 黒松内町概要

図1 町章

1.1 町章

マークは黒松内の「黒」と松の葉を組み合わせたものであり、図に表示されている三本の松の葉は黒松内町成立に伴う、黒松内村、熱郭村、湯別村中ノ川地区の3村をあらわしている。そして松の葉の外の線の太さは健康、内側の線の細さは心の優しさ、全体的に丸みがかかっているのは円満平和を表している。



出典：黒松内町 HP

1.2 地名の由来

黒松内町の名の由来は「クル・マツ・ナイ（和人の女がいる沢）」となっており、これは昔出稼ぎにきた漁夫を追ってきた船が難破してしまい、そのままこの黒松内の地に滞留したことから名づけられた。

1.3 歴史

黒松内町の歴史は天保4年（1833年）までさかのぼる。松前藩の人であった花岡利右衛門という人物が、今の緑橋の黒松内口に花岡宿という宿場を建てた。その後明治4年（1871年）に開拓使は、黒松内花岡宿脇本陣の設備と構内を官設宿場とする計画を立て有珠郡紋鼈村から13戸入植、伊達家家臣、横山勝四郎ら13戸が駅通創設に伴って入植し開拓を始めた。そして黒松内村の起源となるほかの地区である熱郭村は明治24年（1891年）歌棄の住人である横村儀兵衛外16人が歌棄共同農業組合を設立し道庁に土地の払い下げを請願し同27年（1894年）に許可をもらい開墾、湯別村中ノ川地区も明治22年（1889年）ごろに滝沢千代吉を先達とした青壮年一団（新潟県）が第1次入植者として開墾された。黒松内村は当初は1か村として成立した訳ではなく、明治6年（1873年）に今の黒松内市街地、同31年（1898年）に字中里以東の地方と二度にわたる所属替えを経て黒松内村として成立した。明治30年（1898年）ごろから函樽鉄道株式会社（のち北海道鉄道株式会社）の函館一小樽間の主要駅として鉄道の町として、昭和6年（1931年）には金鉱脈の発見により、鉱山を「大栄鉱山」と命名し鉱山の町として栄えました。昭和30年（1955年）に旧黒松内村、旧熱郭村、旧樽岸村の中ノ川地区との合併により「三和村」となり、同34年1月（1959年）には町制施行によ

図2 カントリーサイン



出典：北の道ナビ

り「三和町」に、5 月には「黒松内町」と名をかえ現在に至っている。

2 地理と歴史

2.1 地理

黒松内町は東経 140.18 度、北緯 42.39 度に位置しており、北海道後志支庁管内の南部に位置し、日本海・太平洋に近く、札幌市から約 140km、函館市から約 140km の位置にあり、近隣には、ニセコ・洞爺湖などの道内有数の観光地などがある。北は寿都町を経て日本海を臨み、南は長万部町を経て太平洋を臨んでいるが、いずれもわずかな距離で直接海岸に接することがない内陸地となっている。主要道路網としては国道が 3 路線（5 号線、229 号線、37 号線）通り、隣接する市町村は、渡島管内長万部町、胆振管内豊浦町、後志管内蘭越町、寿都町、島牧村の 3 支庁 5 町村にまたがり、東西 29.3km、南北 19.7km で、総面積は 345.47km²におよんでいる。高地や平野が少なく、町土のほとんどが丘陵をなしており、北に丸山、観音山。東に上来馬山。南にオタモイ山、西に黒松内岳と山に囲まれている。中央部を朱太川が貫流し、これを幹線とした黒松内川、熱郭川などの中小河川が流れている。市街地は、JR 黒松内駅周辺に形成されているが、市街地がいずれの幹線道路からも外れた地域にあるため、緑地や河川などの良好な自然が市街地周辺にも比較的多く残されている。

図 3 黒松内町の所在地



出典：wikipedia

図 4 黒松内周辺図



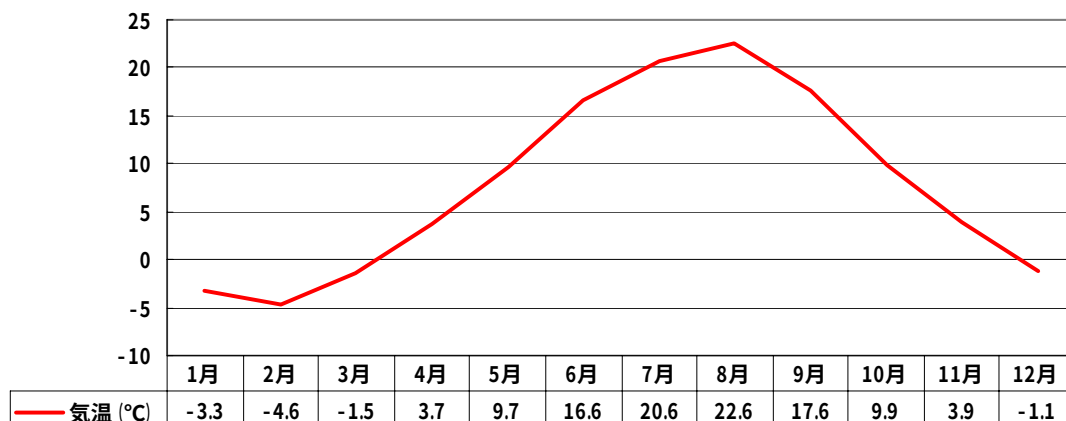
出典：黒松内町 HP

2.2 気候

黒松内町の気候としては地理的に太平洋、日本海と両方の気候の影響を受けてしまう。そのため春から夏にかけては太平洋側の風が濃霧を運び、低温となる独特の現象がみられる。冬は日本海から吹く風によりかなり気温が低くなる。2010 年の平均気温は 7.8 度であ

り、1978年の時よりも1度上昇している。年合計降水量は1844mm。雪についてだが2010年は11月ごろから降り始め、4月ごろまで残り、積雪期間が長い。

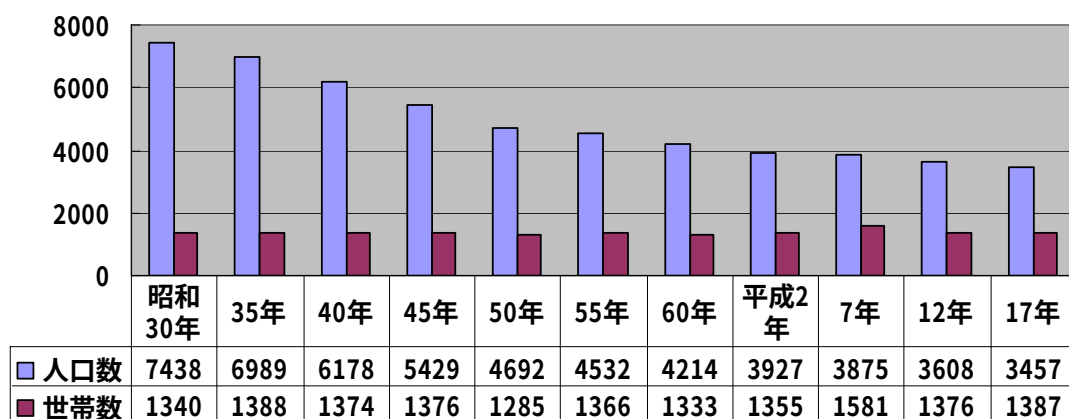
グラフ1 月別平均気温(2010)



出典：気象庁 HP より筆者作成

3 人口および世帯数推移

グラフ2 人口数世帯数推移(人)



出典：国勢調査より筆者作成

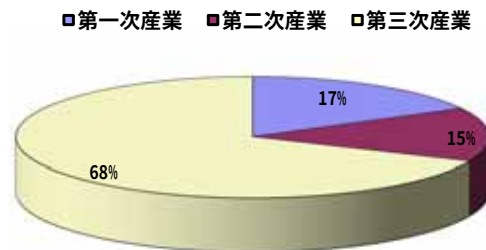
黒松内町の人口は現在3250人であり、町制施行後の昭和30年(1955年)の時の人口は7438人をピークとし、急激な人口の低下、特に昭和35年から55年までの20年間で約1500人もの人口が減少しており、少子高齢社会の影響が表れているといえる。世帯数推移についてだが、平成7年(1995年)の1581世帯をピークにほぼ横ばいの数字となっている。これは核家族の進行によるものと推定される。

4 産業

4.1 産業別人口

産業別人口を見ると、第1次産業が265人、第2次産業が222人、第3次産業が1054人となっており。第3次産業、主にサービス、観光業が中心となっておりと思われる。第1次産業についてだが、これの多くは多くは農業であり少ないながら林業を営んでいる者もいる、第2次産業では主に建設業、製造業をさしている。第3次産業では国の天然記念物であるブナ林を中心とした観光業を中心としている。だがしかしどの産業の人口も減少しており、特に第1次産業の1つである農業の人口減少が著しく、平成2年度の451人に対し、288人となってしまい、これからの農業の衰退が予想される。

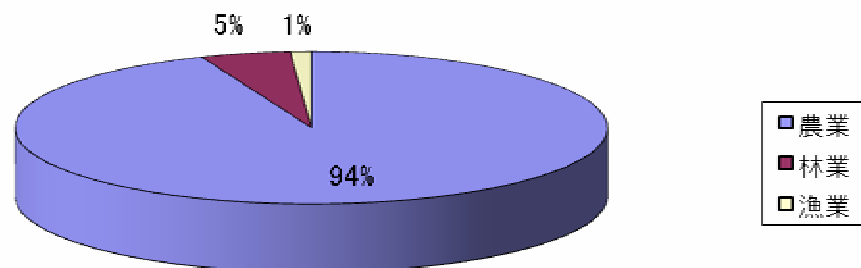
グラフ3 産業別人口（2005年）



出典：黒松内町 HP より筆者作成

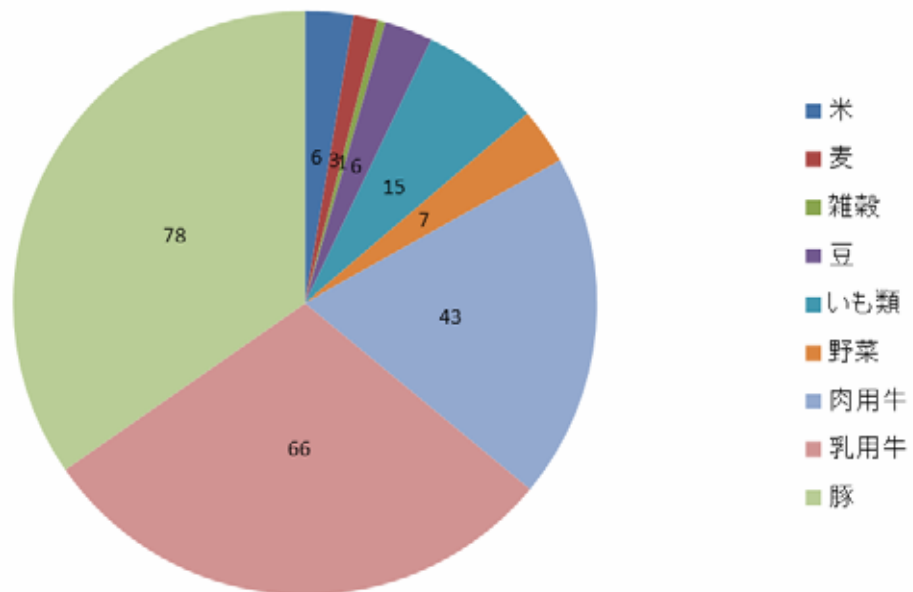
4.2 農業

グラフ4 第1次産業割合（2005）



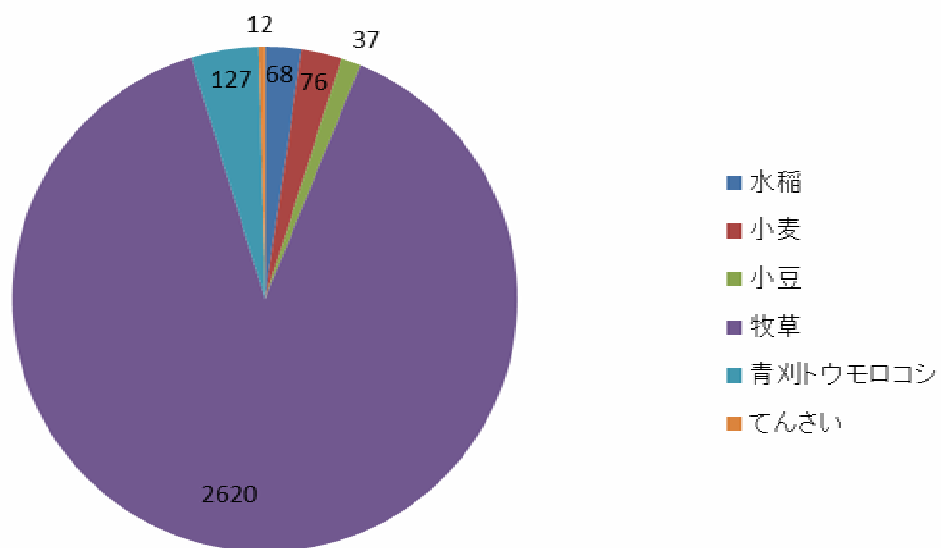
出典：黒松内町 HP より筆者作成

グラフ5 農業生産額（千万円）



出典：わがマチ わがムラより筆者作成

グラフ6 作付面積(ha)



出典：わがマチ わがムラより筆者作成

黒松内町でもっとも盛んな農業は酪農である。黒松内町は乳牛の割合がとて多く、現在約2000頭ほどおり、それは後志支庁管内の乳牛数の4分の1あまりを占める。さらに黒毛和牛などの肉用牛を飼育されている。他に畑作では、馬鈴薯が中心として栽培されており、大豆や小豆、小麦などの穀物類、大根やながねぎ、アスパラガスなどが栽培されている。稲作では主にもち米が作られており「はくちょうもち」という水害に強い品種が栽培され

ており、それを利用した「雪白鳥」という焼酎が発売されている。現在の黒松内町は「黒松内町農業振興計画」に基づき、ふん尿処理施設の整備や生産施設の高度化、有機栽培や無農薬栽培、さらには新規就農者の支援を条例で制定しており、黒松内町で新規に農業を始める人は実習を受けることができ、補助金（農地の獲得などにかかった費用であるうちの3.5%を負担）の提供など農業、農村の振興にも力を入れている。平成12年（2000年）には「二十一世紀を拓く力強い黒松内農業を目指して・フロンティア21」と題した、五年間の第二次農業振興計画も策定された。

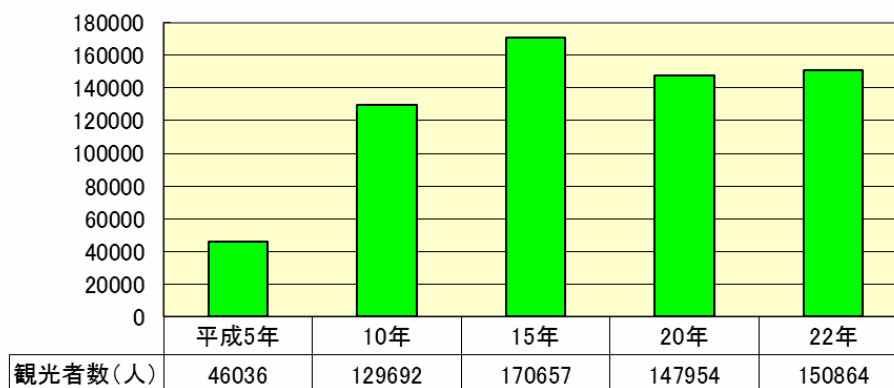
5 観光

5.1 観光についての概要

黒松内町の観光は天然記念物であるブナ林を中心として展開。昭和60年（1985年）に樹立された「黒松内町総合計画」によって観光事業の推進が始まった。昭和63年（1988年）、一「黒松内型のリゾート整備をめざす」、二「風土、文化、産業に根ざしたリゾート整備をめざす」、三「ソフトの充実をめざす」、四「『体験』を最大のおみやげとする」、五「町民、行政組織、民間組織が一体となって推進するリゾート整備をめざす」をコンセプトとし、平成元年（1989年）にはブナの里振興公社が設立、「ブナ北限の里作り構想」実現のための支援構想として観光開発を推進することを目的としている。

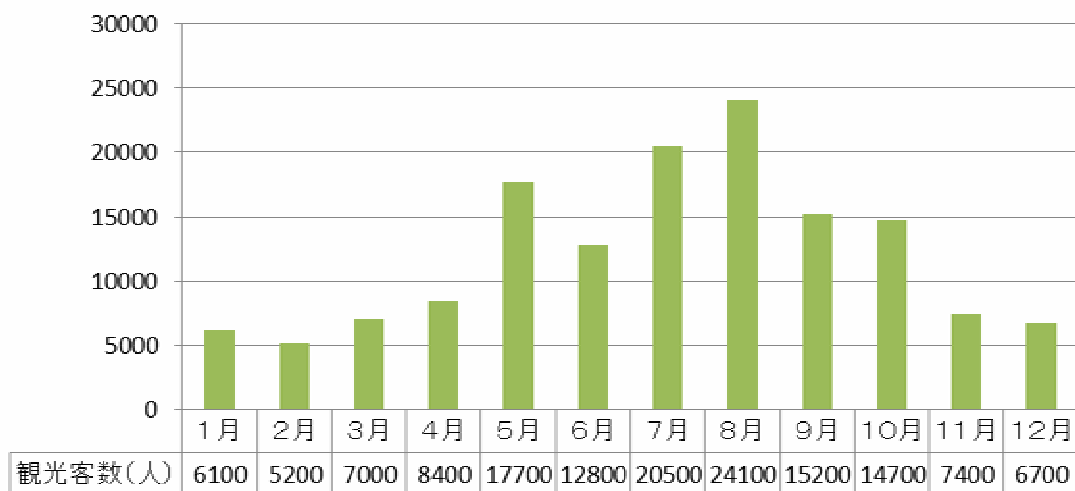
平成3年（1991年）には歌才自然の家を開き、青少年が自然と触れ合うことを目的とした。平成5年（1993年）には歌才オートキャンプ場「ル・ビック」がオープンした、平成5年（1993年）から観光客数が急激に増加したのはこの影響が大きいと推測されている。月別の観光客数についてだが、黒松内町は積雪期間が長いので12月～4月あたりまで観光客数が少ないが夏や秋ごろになると観光客数が増加する。これはキャンプ場やブナ林などの自然を楽しむ時期だからだと推測される。

グラフ7 観光客推移



出典：黒松内町 HP より筆者作成

グラフ8 月別観光客数（2009）



出典：黒松内町HPより筆者作成

5.2 観光スポット

5.2.1 ブナセンター

黒松内の恵まれた自然、農業などの地域資源を活用して体験学習型での都市での交流を主とした農村理想郷を目ざしている。そういった目的でブナセンターは平成5年（1993年）にオープンした。この施設は後述する歌才自然の家と相互関連した施設とされており、この施設では野外活動や創作活動など遊びながら学ぶと言うことを目標としている。

図5 ブナセンター



出典：黒松内町 HP

5.2.2 歌才オートキャンプ場「ル・ビック」

歌才オートキャンプ場「ル・ビック」は平成5年（1993年）にオープン。観光客増加の理由の1つがこのキャンプ場の開設が大きいと推測されている。ブナセンターに隣接しているこの施設は白樺などの広葉樹に囲まれ、自然の中でゆっくりと過ごしたいアウトドアに人気とされている。バンガローが3棟、カーサイトが24区画、キャンプ可能なフリーテントサイトが10張分設置されており、バンガロー及びカーサイトには水道、電気がしかれている。

図6 ル・ビック



出典：黒松内町 HP

5.2.3 トワ・ヴェール

「ブナ北限の里作り構想」の一環として平成5年（1993年）に特産物手作り加工センターとして「トワ・ヴェール」がオープン。黒松内の主要産業である酪農に付加価値をつけた牛乳、豚肉を用いたチーズ、アイスクリーム、ハム、ソーセージなどを販売しており、全国でもその品質の高さは評判が高いとされている。

図7 トワ・ヴェール



出典：黒松内町 HP

5.2.4 歌才自然の家

平成3年（1991年）にオープンした歌才自然の家は「ブナ北限の里作り構想」の中核的施設として位置づけられた。「牧歌的風景の中、周辺の歌オブナ林や運動公園などの自然を楽しみながら人と人とが心豊かに交流するコミュニケーションの場」をうたい文句としている。

図8 歌才自然の家



出典：黒松内町 HP

5.2.5 ブナ林

黒松内町といえばブナ林が名物とされる。日本のブナは南は鹿児島県で、北は北海道渡島半島まで分布している。寿都と長万部を結ぶ「黒松内湿地帯」がブナの北限とされている。歌オブナ林は昭和3年（1991年）に国の天然記念物とされており、その後の2度にわたる伐採の危機を乗り越え今日まで手厚く保護されている。現在では「ブナ北限の里作り構想」とブナ林を中心とした観光事業の展開を行っている。4月下旬から5月上旬に賭けてはカタクリの花が次々と咲き、9月中旬には木々の紅葉、10月後半にはブナの紅葉の見所となっており、冬にはかんじきをはいて散策することができる。

図9 歌オブナ林



出典：黒松内町 HP

参照HP

黒松内町公式HP：<http://www.kuromatsunai.com/>

北の道ナビ：<http://northern-road.jp/discover/index-cs.htm>

農林水産省 わがマチ・わがムラ：

<http://www.machimura.maff.go.jp/machi/map2/01-01/393/index.html>

統計局HP：<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/index.htm>

気象庁HP：

http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php?prec_no=16&prec_ch=%8C%E3%8E%92n%95%FB&block_no=0061&block_ch=%8D%95%8F%BC%93%E0&year=&month=&day=&view=

wikipedia :

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%BB%92%E6%9D%BE%E5%86%85%E7%94%BA>